

釣月寺の由緒

応永元(1394)年、大本山方広寺開山円明大師無文元選禪師(第96代・後醍醐天皇の皇子)の弟子在徳健頼和尚の開山であり、室町幕府の奉行三善朝臣の開基です。大本山方広寺の開山とわずか十年ほどの開きしかありません。開山以来現住職まで23代を数えます。

元禄時代の記録によりますと、末寺が六カ寺あったというのですが、現在は四谷の海源庵一カ寺が海源寺と改称し、釣月寺住職の兼務となり現存しています。



本堂

本堂は元禄元(1688)年、9世竺隠和尚の代、海老陣屋菅沼定賞の用材寄進により再建されたもので、旧鳳来町内寺院の建造物としては最も古いとされ、昔の原形を維持しています。とくに内陣の彫刻は他に類を見ません。山門は記録がなく、年不詳です。開山堂は嘉永7(1854)年、18世桂道和尚の代に新築、庫裡は昭和31(1956)年、21世泰信和尚の代に落慶しました。離れである茶室は、平成10(1998)年、22世道源和尚の代に完成しました。

本尊・釈迦三尊

中央: 釈迦如来(高さ100cm)
左: 普賢菩薩(高さ80cm) 右: 文殊菩薩(高さ73cm)



開運大黒尊天

高さ147cm、幅96cmという他に類をみない大きさの開運大黒尊天は、ご利益として、出世開運・勝負運・商売繁盛・五穀豊穡の仏様として、多くの皆様方から親しまれています。

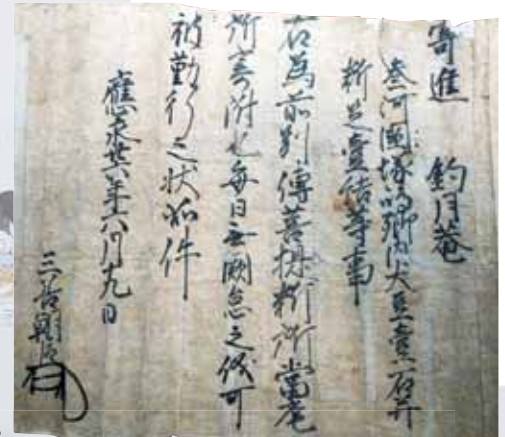
大正13(1924)年に、本堂北側に別祠である大黒殿が建てられ、そこに奉納されましたが、祠の痛みが激しく、平成21(2009)年に、本堂上間の間に移設しました。



ほうもつ

宝物 三善朝臣寄進状

室町幕府の奉行三善朝臣から応永26(1419)年に送られた寄進状が残っています。専門家に鑑定していただいた所、本物であるとお墨付きをいただきました。新城市には、室町時代(1336~1573)の古文書は他には残っていないとのこと。



永代供養塔



檀信徒の皆様方からの強い要望で、平成29(2017)年に、永代供養塔ができました。

申込者は、次の条件を満たす方です。

- (1)墓を維持管理する後継者がいない方。
- (2)後継者はいるが、遠くに居住している等の理由のため墓の維持管理ができない方。
- (3)当寺と仏縁を結んでいただいた方。檀信徒であるかどうかは問いません。